

Q5 値上げして、どんな事業を進めていくの？

A “待ったなし”の先送りができない老朽施設の更新と、将来の投資額の削減を図るための基盤整備を進めていきます。

水道供給を維持するうえで“待ったなし”の基幹施設の更新や、将来の投資額の削減を図るうえで不可欠な施設再構築等の、先送りの余地がない事業のみを絞り込んで実施していきます。

向こう3年間の主な事業

○水源確保にかかる事業

石木ダム建設(令和14年度完成予定)にかかる事業です。水源不足の解消を図ることで、節水型経営からの脱却や、施設の統廃合により将来の負担の緩和を図る効果が得られます。(詳しくはQ7、Q8を参照)

また、老朽ダムの更新・改修に着手するうえでも不可欠な事業です。(詳しくはQ10を参照)



○更新需要削減にかかる事業

老朽化した基幹施設の更新に合わせて、統廃合やダウンサイジング等により、将来の負担の緩和に寄与する事業です。

将来の削減効果を得るために、今、進めておかねばならない基盤部分の整備を進めます。

(北部・中部・南部各水系の基幹管路の整備など)

中部水系の整備事業



○リスクマネジメントにかかる事業

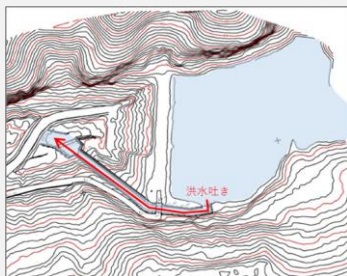
漏水や破裂事故を早期に発見、迅速な対応を行い、給水サービスを維持するために、モニタリングの強化等を行う事業です。

○安全性確保にかかる優先事業

老朽化した基幹施設の更新を行うもので、先送りの余地がない“待ったなし”の更新事業です。

向こう3年では、大雨の時にダムから水があふれることや、ダムから浄水場に水を送る管路の破裂等を防ぐ事業を予定しています。

歌ヶ浦貯水池洪水吐改修事業



菰田導水管整備事業

